

ペアレントメンター養成と 地域活動

愛知県自閉症協会

加藤 香

今日のお話

- ペアレントメンターとは
- 愛知のペアレントメンター活動
- ペアレントメンター活動の進め方

今日のお話

- **ペアレントメンターとは**
- 愛知のペアレントメンター活動
- ペアレントメンター活動の進め方

ペアレントメンターとは・・・

- メンター(mentor)とは「信頼のおける相談相手」という意味です。
- 現在、欧米では親自身が診断を受けたばかりの子どもの親や、さまざまな子育ての疑問を持つ親に対して話を聞いたり、情報提供を行ったりして活動しています。
- もちろん親は専門家ではありませんから、自分の体験にないことや難しい相談を受けることはできません。しかし同じ親として話を聞くことや共感することはできます。
- こうした相談活動は発達障害の診断、支援が広がっていく中で、今後ますます必要となってくる。

メンターの活動は・・・

- 経験から得た知識を参加者に伝えることができる
- 同じ障害児を育てている親として共感でき、寄り添う
- HPや広報にない「口コミ情報」を親に伝える
- 育ててきた経験を話すことで、将来の見通しがたつ

ペアレントメンター養成の歴史

2005年度	日本自閉症協会主催(日本財団助成) ベーシックコース新設	2回	60名
2006年度	ベーシックコース フォローアップコース新設	3回 2回	80名 58名
2007年度	ベーシックコース フォローアップコース サポートブックリーダー養成コース新設	3回 1回 1回	92名 48名 47名
2008年度	モデル事業開始 2地域(鳥取・旭川) ベーシックコース フォローアップコース サポートブックリーダー養成コース	4回 4回 4回	167名 69名 94名
2009年度	各県にて独自開催が広がる		
2010年度	厚生労働省による施策化		

計399名養成

うち

フォロー修了200名

サポブ修了116名



ここまでで

各地区でのひろがり

- 【兵庫県】 ひょうご発達障害者支援センタークローバーでの取り組み
- 【愛知県】 親の会の事業として2005年より開始
- 【鳥取県】 協会電話相談 ピアカウンセリング
ペアレントトレーニングへの参加
- 【広島市】 市主催のグループ相談に複数の親の会のメンターが参加
- 【三重県】 親の会の事業として2008年より開催
- 【東京都】 会主催の研修会
- 【山口県】 **NPO**での作成研修会開催
- 【埼玉県】 サポートブックフォーマットの作成
- 【奈良県】 助成金による会主催の研修会(基礎・支援者・リーダー養成)

地区の特性に合わせて徐々に展開しつつある

静岡市、宇都宮市、神戸市など自治体でリソースやサポブを作成しているところもでてきている

今日のお話

- ペアレントメンターとは
- 愛知のペアレントメンター活動
- ペアレントメンター活動の進め方

愛知県のペアレントメンター

- 愛知県のベーシック修了者46名
(平成22年度10月末現在)

愛知県自閉症協会	37名
(高機能部)	11名)
(父親部)	4名)
あいちLD親の会 かたつむり	7名
アスペ・エルデの会	1名
えじそんくらぶ なごや親の会	1名

愛知県自閉症協会の ペアレントメンター事業

①直接活動

- ・電話相談、地域での茶話会など

②地域での活動(小集団活動)

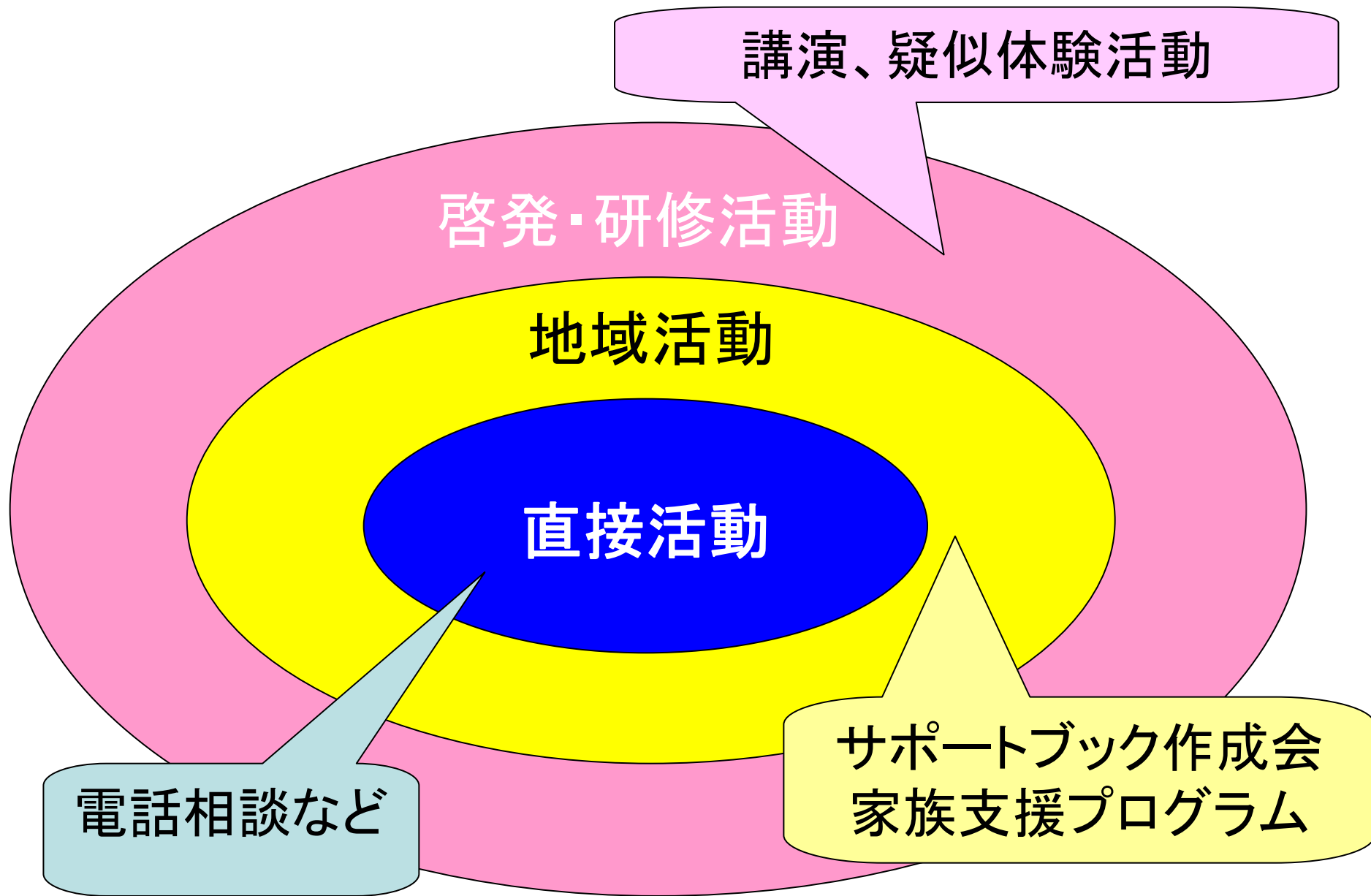
- ・サポートブック作成会
- ・家族支援プログラム(疑似体験・ピアカウンセリング)

③啓発・研修活動

- ・行政の研修、大学などでの講義・講演
- ・障害特性の説明・疑似体験など
- ・ペアレントメンター研修への協力

④応用研修、事例検討会

- ・実践を踏まえた新しい研修



①直接活動

- 茶話会

- ・支援部、高機能部での行事として
- ・地域限定の活動として

- 電話相談・個別面談

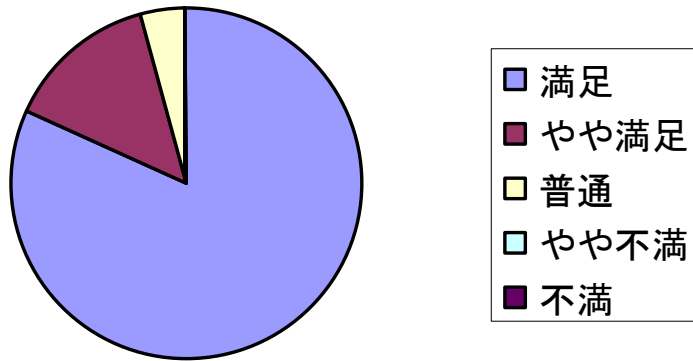
- ・当会では特に窓口を設けていません。
- ・専用回線はないが、相談電話はかかってくる

②地域活動

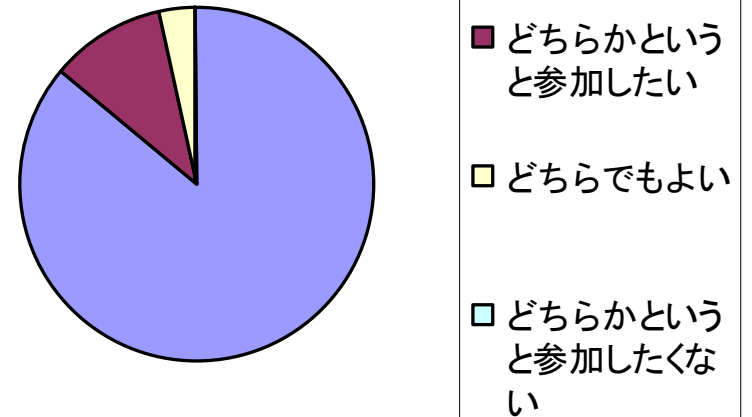
- 家族支援プログラム(あいち発達障害者支援センター)
 - ・平成20年度～平成23年度で13回:185名参加
- サポートブック作成研修
 - ・平成17年度より事業開始
 - ・平成23年度末で参加者数が述べ2200名になる予定
- グループ相談会(名古屋市発達障害者支援センター)
 - ・平成23年度より事業開始(9月より毎月開催)

家族支援プログラム 参加者アンケート

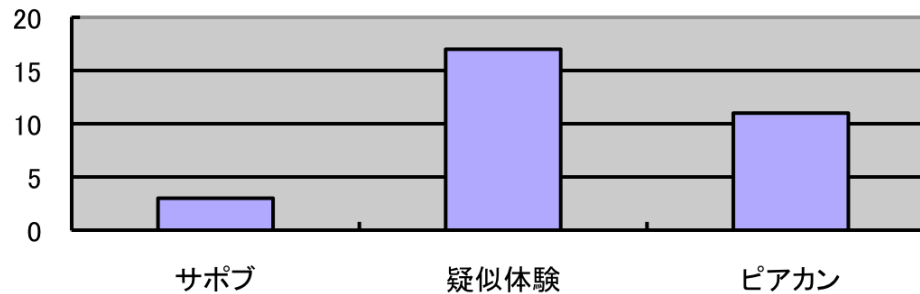
満足度



今後参加したいか



印象に残ったのは



③啓発・研修活動

活動内容	回数	延べ派遣人数
保育士研修	3回	15名
行政窓口職員研修	2回	8名
相談事業従事者研修	1回	10名
その他派遣	7回	18名
外部講演など (大学・行政セミナー)	2回	4名

2011年度派遣実績

④応用研修、事例検討会

- メンター同士顔をあわせての情報交換
- お互いを認め合う時間
- さらなるスキルアップ
 - 後輩の支援も

応用研修・事例検討

2009年度	応用研修Ⅰ ①地域リソースの活用法 ②相談に行き詰ったときの解消法について 事例検討会 1回
2010年度	応用研修Ⅱ ①学校との関係について ②身体医療との付き合い方 事例検討会 3回
2011年度	応用研修Ⅲ ①活動を続けていくために ②成年後見について 事例検討会 4回

コーディネーターとして 現在行っている主な業務

- ペアレントメンターの基礎情報の管理
- 派遣事業へのメンターの配置
- 相談活動の集計およびフィードバック
- 継続している相談への対応、メンターへのストレスマネジメント
- ペアレントメンター研修(事例検討・アドバンス研修)の企画・運営

メンター通信として発信(フィードバック)

メンター通信(VOL.3)

2009年
【認知発達研究協会】

本が刊行2年が過ぎました。10～12月は一年の中で行事の多い時期になりました。様々な活動の中でメンターが活躍していたことを報告いたします。今回は行事の内容についても紹介したいと思います。

①メンター活動報告(10～12月)

10月1日	サポートブック研修	1名
10月2日	サポートブック研修	2名
10月22日、23日	家族支援プログラムセミナー(同時会場)	
	サポートブック研修	1名
	障害特性理解・福祉理解	1名
	ピアカウンセリング	8名
11月9日	サポートブック研修	2名
11月10日	サポートブック研修	1名
11月11日	サポートブック研修(座席)	1名
11月12日、13日	家族支援プログラムセミナー(各名在園会場)	
	サポートブック研修	1名
	障害特性理解・福祉理解	2名
	ピアカウンセリング	8名
11月24日	サポートブック研修	2名
11月25日	サポートブック研修	1名
12月1日	サポートブック研修	1名
12月9日	サポートブック研修	2名
12月12日	サポートブック研修(座席)	2名

家族支援プログラムセミナーは各会場において3日間かけて行いました。この事業には社会福祉学部の学生が参加していたり、【サポートブック研修】【障害特性理解・福祉理解】【グループによるピアカウンセリング】という内容で、それぞれ認知発達研究協会ベアレントメンターが担当を任せていたと報告いたします。

ピアカウンセリングに関しては様々な内容についてベアレントメンターからの経験談、質問にも関わらずありました。

家族支援セミナーに加えている関係上、今回の活動対象者年齢は4～8歳が多く、「経験者」と認知発達研究協会は多いと感じています。

本事業に参加したベアレントメンターを対象にアンケートを行いました。結果を別項に報告させていただきます。

②メンター活動報告書の集計(10～12月)

15名の方から合計47件の報告をいただきました。
サポートブック研修 15件、ピアカウンセリング 10件、障害特性理解・福祉理解 10件、家族支援セミナー 12件

この冊子の中で使った用語、プログラムの名称などは実際にメンターが現場で使った用語も取り入れ、下に該当者に報告いたします。

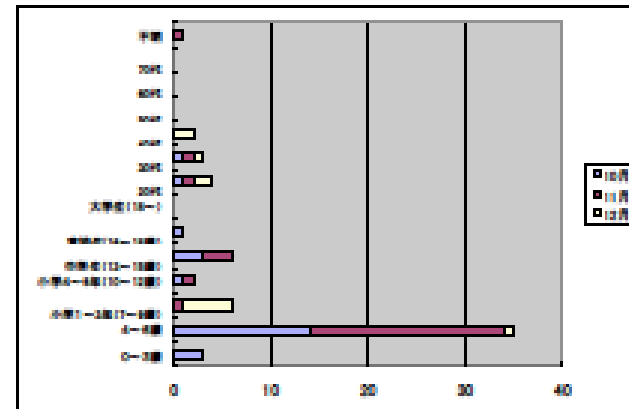
掲載内容については一言に賛意の声をいただいたり、お礼の言葉をいただきました。掲載内容が間違っていたらご指摘ください。ご了承ください。

(1) 活動件数と性別・年齢・手帳の傾向

※表記入もあつたため合計は一致しません

	活動件数	性別		年齢		手帳	
		男	女	男	女	あり	なし
10月	17	10	7	8	9	8	9
11月	10	13	4	5	6	5	7
12月	12	9	3	4	8	4	8

(2) 活動対象者年齢



(3) 活動形態・認知レベルとの関係

○本部会などの行事として 7件 …… 主に活動11件(10)での7つのセッションを含む)

○メール 2件 …… 連続2回(1)ケース)

○個別研修 3件

	認知レベル	認知なし	認知あり	計
10月				0
11月		1	1	2
12月		1	1	2
合計		2	2	4

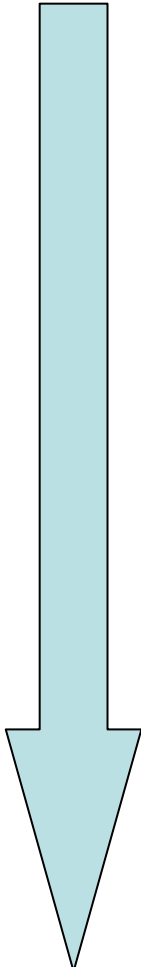
今回のケースは【予備校のケース】
【通常のケース】【他の子に合わせた
ケース】というケースばかりで、通常よりも
認知レベルが高かったり、通常のメンター
が扱えない。

今日のお話

- ペアレントメンターとは
- 愛知のペアレントメンター活動
- ペアレントメンター活動の進め方

地域に根付いた活動にしていくには

1. 地盤調査
2. 新規養成
3. 通信整理、情報把握
4. 地域のリソースの集約
5. 活動依頼の集約、活動希望の調整
6. 活動開始、後方支援
7. 活動および相談の集約
8. メンターへのフィードバック、外部との調整
9. 定期的な事例検討会、研修
10. 行政、各機関との連絡・調整

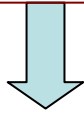


地域にあった速度
で、進めていくこと
が理想

事業展開の例

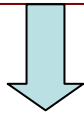
1年目

- ・地元にある家族支援はなにか
- ・地元の親活動でどんなことをしているか
- ・その中で、親が担うこと・専門機関が行うことを選別



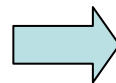
2年目

- ・メンター候補生の選定(要団体推薦)
- ・地域の支援者の確保
- ・行政、支援センター、親の会との連携
- ・新規養成研修
- ・連絡方法の調査、集約
- ・ペアレントメンター情報のデータ化



3年目

- ・リソース作成(報告フォーム作成)
- ・活動依頼の把握、スケジュール調整
- ・活動参加意向調査、マッチング
- ・活動(後方支援)
- ・活動報告提出(集計・評価)
- ・フィードバック
- ・活動の見直し



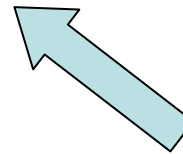
4年目

- ・事例検討会、事後研修
- ・外部への啓発活動
- ・外部との調整
- ・ペアレントメンターへの定期的な調査
(活動が負担になっていないか、希望の活動は何か)



5年目

- ・地元にあった活動の検討
- ・新規メンター養成の準備



一年に一回はチーム(スーパーバーザー・行政・発達障害者支援センター・親の会で構成が理想)での連絡会を開催して足並みをそろえる

養成を始める前に

- 候補者の選び方
 - － 親の会での活動経験・会からの推薦
 - － 倫理的配慮
 - － 候補者への事前説明
- 養成後の活動方針
 - － 活動の場の確保
 - － 支援態勢の整備
 - 養成研修への地域の行政機関、専門家の関与をきっかけに

事業を長く保つために

- メンターの研修・ピアサポート
 - 継続した研修の企画
 - メンター同士が顔を合わせる機会を
- 役割を明確に
 - 親以上の能力を求めないこと
- バランスのよい活動
 - 活動時期が集中したり、特定の人に負担がかからないように
 - コーディネーターの配置を

今後の課題

- 各ライフステージにおいてまんべんなく支援の供給ができるように、活発化させることが理想的
 - 養成研修の継続的实施
- 活動に関して負担になる項目についての支援が必要
 - 時間的負担
 - 経済的負担
 - 心理的負担
 - 地域の行政機関、専門家の理解、支援を
 - 支援者向け研修の実施も